

# 前田道路のCSR

## CSR・環境担当役員メッセージ

### 社会的価値と経済的価値を両輪に、「環境技術舗装会社」を目指します。

当社は数年来、道づくりにおけるCO<sub>2</sub>排出量の削減を推進してきました。その一つが、「低炭素素材」の製造・販売です。「低炭素素材」製造の核となる中温化技術は、2023年度に国や自治体で標準仕様化されるなど、社会への普及に向けて大きく前進しました。舗装業界において合材の低炭素化を牽引したと自負している当社としては、非常に喜ばしいことです。ここで歩みを止めることなく、さらに低炭素な道づくりを推し進めるべく、当社では2023年度に営業体制の強化に取り組みました。現在は、品質や価格、社会からの要請変化も含め、「低炭素合材」が地場で事業を行うお客様の成長にも資するものであると訴求することに注力しています。

サステナビリティへの取り組みは、サプライチェーン全体、ひいては社会全体がタッグを組むことで、推進力が増すと考えています。「人と環境にやさしい道づくり」を掲げる当社として、この分野で業界をリードするという意志が変わりはありませんが、一方で、営利企業としての経済的価値の追



取締役常務執行役員  
技術本部長  
兼 CSR・環境担当  
**守安 弘周**

求も大きな使命の一つです。社会的価値と経済的価値はトレードオフの関係にあるという捉え方は、すでに過去のものです。外部環境変化に対応しながら、いかにして複数の価値を同時に高めていくか。その実現に向けた打ちは、さらに必要性を増していくでしょう。その一環として、当社では子会社でのバイオ重油製造を開始しました。このバイオ重油は、現在は当社合材工場で活用することでCO<sub>2</sub>排出削減につながっていますが、将来的には社外へも販売し、経済的価値を生み出すことを視野に入れています。

「環境技術舗装会社」としてさらなる事業成長を果たすべく、今後も不断のチャレンジを続けてまいります。

## 中期CSR・環境計画

中期CSR・環境計画実施項目		2023年度成果
体質改善	①法令遵守の徹底	●環境関連の重大事故の発生:0件
	②環境教育の実施	●各階層別教育率:100% ●新入社員研修での実施:4回/年
	③品質管理の徹底	●品質の重大不具合:0件
生産性改革	①脱炭素社会に向けた取り組み	●再生可能エネルギーの積極的な導入と確保によるCO <sub>2</sub> 排出量削減 ●バイオ重油を製造する運営子会社の日本バイオフェューエル株式会社が稼働
	②循環型社会(CE <sup>®</sup> )の構築に向けた取り組み	●廃棄物の再資源化率:97.7%
	③生物多様性保全の取り組み	●生物多様性に関する環境教育プロジェクト[Bonin Infrastructure Initiative] 現地(小笠原)プログラムを実施
新たな収益基盤の確立	①新商品・新製造技術	●非化石証書を活用した低炭素合材の製造・販売拡大 ●バイオ重油を製造する運営子会社の日本バイオフェューエル株式会社が稼働
	②自社既存技術の活用と環境共有価値の創造	●フォームドアスファルト混合物製造装置導入:59工場
	③事業活動におけるSDGsの浸透	●社内冊子や掲示板にて情報発信 ●インフロンニア・ホールディングス全体でESGセミナー動画による全社員教育 ●e c o検定(環境社会検定試験) <sup>®</sup> 資格取得の推進 (e c o検定(環境社会検定試験) <sup>®</sup> は東京商工会議所の登録商標です。)

※ 資源循環の効率化だけでなく、原材料に依存せず、既存の製品や遊休資産の活用などによって価値創造の最大化を図るというEUで提唱された経済システム。

## 重点実施項目と成果

分類	前田道路が目指すこと	具体的な取り組み	成果	関連するSDGs	関連報告
製品・研究 による貢献	CO <sub>2</sub> 排出量を抑制し、地球環境に配慮した舗装補修材の使用	「マイルドパッチ」の販売促進	2022年度 販売数:1,076,675袋 2023年度 販売数:1,130,075袋	7, 13	P20
	都市型降雨災害を抑制する	「アクアブラ <sup>®</sup> 工法」による外構設計・提案と施工技術支援の拡充	2022年度 全国施工実績:36件 2023年度 全国施工実績:27件	9, 11, 13	P9-10
	温室効果ガス排出抑制による地球温暖化防止	フォームドアスファルト合材「ecole」の販売推進	2022年度 ecole出荷数量:197,365t 2023年度 ecole出荷数量:468,067t	7, 13	P13
製造段階 での貢献	ecole製造にかかる装置増設	設置工場の拡大	2022年度:47工場 2023年度:59工場	7, 9, 13	P13
	骨材加熱の使用燃料に低炭素燃料を使用	バイオマス燃料の使用促進	2022年度:663,514L 2023年度:442,486L	7, 13	P7-8 P19
	自社使用電力のCO <sub>2</sub> 排出量削減	再生可能エネルギー使用の推進	全拠点で導入(2024年4月)	7, 13	P19
サービス (舗装工事など) による貢献	顧客のCO <sub>2</sub> 排出量低減への貢献	アクションレポートの発行	2022年度:83件 2023年度:1,925件	7, 12, 17	P11-13
	産業廃棄物のリサイクル促進	再生合材出荷数量の増加推進	2022年度 出荷実績:5,132千t 2023年度 出荷実績:4,885千t	7, 11	P21
	道路舗装工事の生産性向上	ICT施工の実施	2022年度実績:755件 2023年度実績:1,153件	9, 13	P14 P23
社員・ステークホルダー への貢献	社員の健康管理 社員の健康促進	保健師面談の実施 休暇取得の推進	年1回実施(面談実施率:97.7%) 有給休暇平均取得日数:11.1日	3	P26-27
	グローバルな人材確保・多様性の推進	外国人高度人材の受け入れ	2023年度 中途採用:3名 新卒採用:4名 合計:7名	4, 8, 10	P27-29
	働き方改革の推進	気象データアプリを活用した計画的な工程管理による休暇取得促進	全社員利用 新技術情報提供システム(NETIS)登録	7, 8, 10, 13, 17	P25-26
	環境教育プロジェクト(小笠原)	未来を担う学生と「生物多様性とインフラの共生」を推進	2023年度 教育回数:4回	11, 15, 17	P22

## CSR推進体制



## マネジメントシステム

品質、環境および労働安全衛生について、ISOの認証を取得しています。品質では、主に公共工事において品質目標を定めて施工計画を事前に検討するとともに、情報シート報告システムを通じて苦情や不具合等を素早く社内展開しています。環境については、環境影響評価により環境目標を管理するほか、本レポートに記載の取り組みを行っています。労働安全衛生では、「重大災害

ゼロ」を達成するべく各部署でリスクアセスメントを実施しています。また、安全衛生目標を定め、安全衛生委員会（協議会）を通じて、リスク低減に向けた管理を継続しています。

品質、環境、労働安全衛生ともに、内部監査によってマネジメントシステムの有効性を確認しています。2023年度、重大な法令等の違反は発生していません。

## ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーからのご意見、ご要望を確認し、その中から抽出したニーズや課題、関心事を可能な範囲で反映して事業活動に取り組むことは、ステークホルダーとの良好な関係構築に寄与し、持続的経営・協働につながります。当社では、支え合っているステークホルダーと双方向でのコミュニケーションを図るため、さまざまな機会を設けています。なお、当社にお問い合わせいただいたご意見で早急に対応が必要な事案は、管轄部門で速やかに対応しています。



本社エントランスでは、来訪者向けに製品・技術紹介動画を掲出

### ステークホルダーとの双方向対話手法

#### ① お客様

- 営業活動
- お客様アンケート
- 情報シート  
(各事業所へ直接の意見・情報提供)

#### ② 従業員

- 労働組合との団体交渉
- 意識調査
- 情報シート

#### ③ 協力会社・資材調達業者

- 共栄会、歴友会\*評価表
  - 安全衛生協議会
- \*当社の依頼業務を主体として協力し、会員要件を満たす協力会社。工事部門は共栄会、製造部門は歴友会。

#### ④ 地域社会・住民

- 工場、現場において、近隣住民や行政を対象とした見学会や研修会を実施